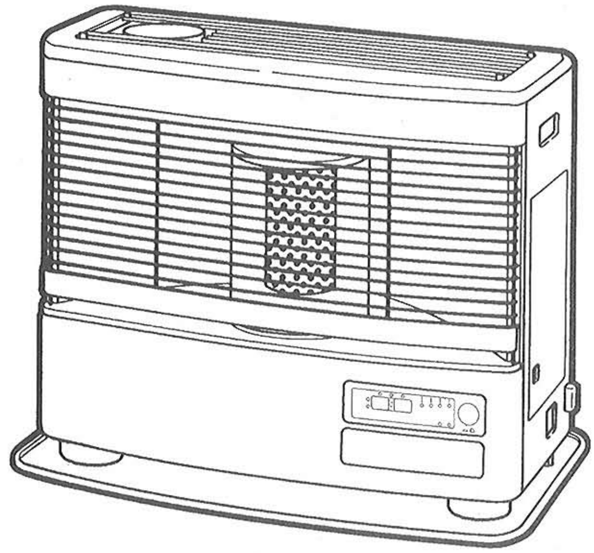
TOYOTOMI

トヨストーブ



レーザーポット

型式 **HR-682D**
エッチ アール デー

半密閉式石油ストーブ
㊿日本工業規格品

お使いになる前に

使いかた

お手入れ・アフターサービス

据付け

取扱説明書・工事説明書

このたびは本品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

■ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書・工事説明書」をよく読んで、正しく使用してください。
この「取扱説明書・工事説明書」は、保証書と共に必ず保管してください。

●まちがった使用をされますと機能を充分に発揮しなかったり故障や思わぬ事故・危険を招くことがあります。

⚠警告



KEROSENE ONLY
ガソリン厳禁

S08-2

2070000961

株式会社トヨトミ

もくじ

取扱編

工事編

安全のために必ずお守りください

●ここに示した事項は、⚠警告、⚠注意に区分しています。

⚠警告	取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。
⚠注意	取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合。

「⚠注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載してありますので、必ず守ってください。

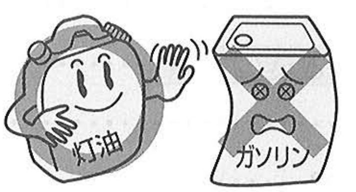
★説明文中の お願い 事項は、本機を誤りなく使用していただくための注意事項が記載してありますので、お守りください。

●イラスト(まんが)の横にある ⃠ マークは「**禁止**」、❗ マークは「**強制**」、⚠マークは「**注意**」、 マークは「**分解・改造禁止**」、 は「**接触禁止**」を表しています。

⚠警告

★ガソリン厳禁

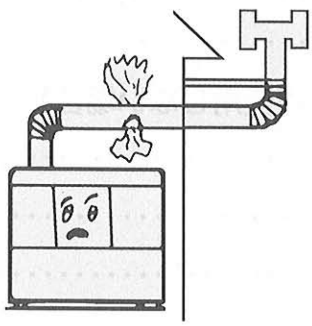
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。





★外れ危険

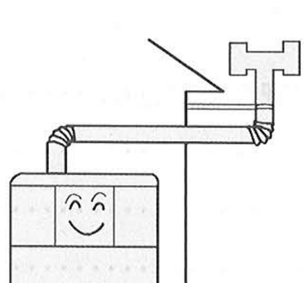
煙突が正しく接続されているか点検してください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。





★煙突は屋外へ

必ず煙突を取り付けて、煙突を屋外へ出してください。
出さないと、異常燃焼やガス中毒事故を起こすことがあります。





⚠警告

★煙突の閉そく危険

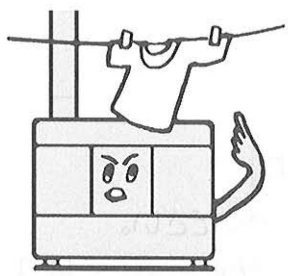
煙突がつまったり、ふさがれたりしていないことを確認してください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

★煙突内結露水の凍結に注意

外気温が低い場合、煙突内の結露水が凍結して煙突をふさぎ、排ガスが室内に漏れることがあり危険ですので、ときどき煙突を点検してください。

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。



★可燃性ガス危険

可燃性ガスの発生する場所または、たまる場所では使用しないでください。
引火して火災の原因になります。

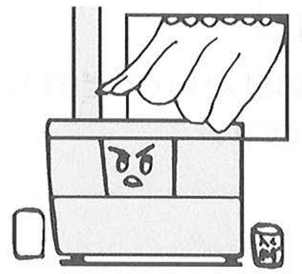
★スプレー缶厳禁

スプレー缶や炭酸飲料などをストーブの上や前に放置しないでください。
熱で缶の圧力があがり、爆発し、危険です。

⚠注意

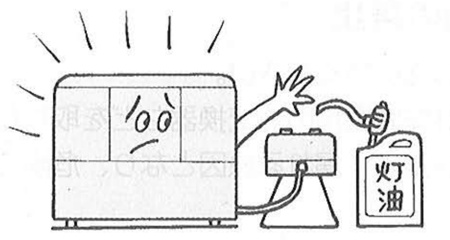
★カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。毛布やふとんなどを近くに置かないでください。
火災が発生するおそれがあります。



★給油時消火

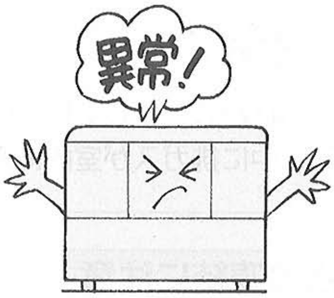
給油は、必ず消火してからおこなってください。
火災のおそれがあります。



⚠注意

★異常時使用禁止

万一異常を感じた時は、使用しないでください。
異常燃焼や火災のおそれがあります。



★高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、煙突、天板、天板ガード、ガードなどに手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

★やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。

★天板ガードを取り付ける

ストーブを使用するときは、必ず天板ガードを取り付けてから使用してください。
取り付けないと、地震などによりストーブに可燃物が落下して、火災のおそれがあります。



★分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。

★改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
また、煙突には床暖房用の熱変換器などを取り付けないでください。
火災や排ガスが室内に漏れる原因となり、危険です。

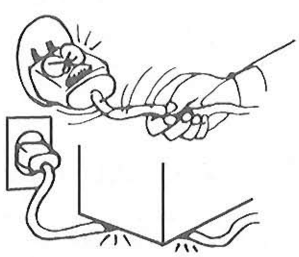
⚠注意

★換気扇使用禁止・空気取入口をつける

ストーブを使用している同室内で換気扇を使用しないでください。
異常燃焼や、立消えして爆発燃焼するおそれがあります。
〔空気取入口がない気密のよい部屋で換気扇を回すと、室内の気圧が低くなり、煙突から室内へ排ガスが逆流することがあり危険です。また燃焼用空気不足になり不完全燃焼するおそれがあります。〕

★電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり傷付けたり束ねたり、物をのせたり加工しないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。電源コードが破損し火災や感電の原因になります。



★電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
（また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。）
火災の原因になります。

★長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

★電源プラグのお手入れを

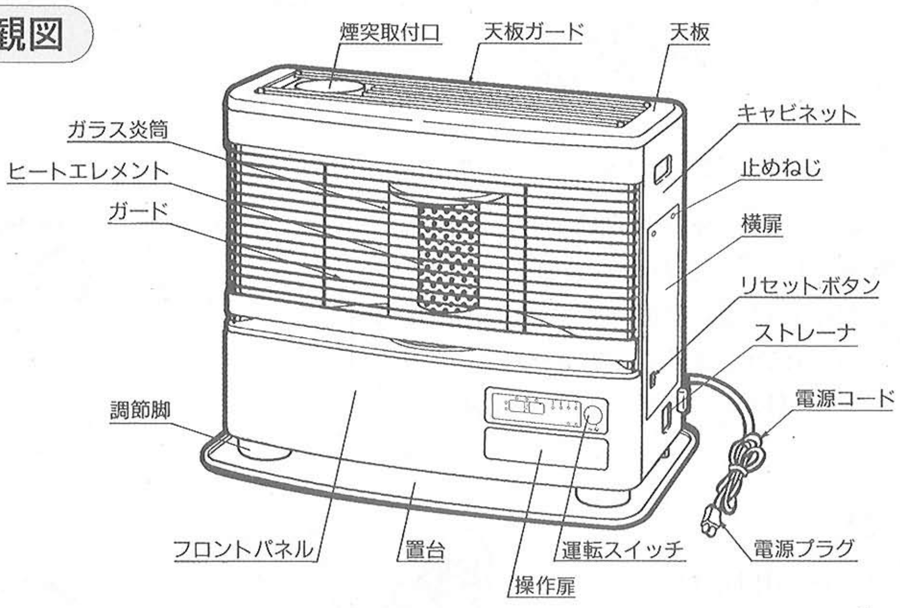
ときどき電源プラグを抜き、ほこり（及び金属物）を除去してください。
（ほこりや異物がたまると湿気などで絶縁不良になり）火災の原因になります。

★高地（標高1,500m以上）使用禁止

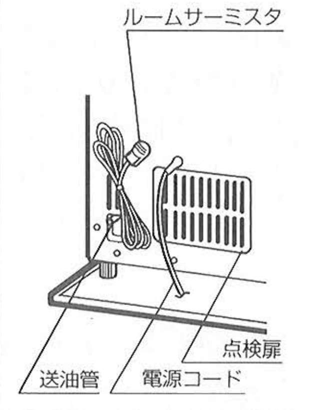
酸素濃度が薄いので不完全燃焼します。
標高1,000～1,500mでは再調整が必要ですので、販売店へお問い合わせください。

各部のなまえ

外観図



本体の背面



操作・表示部のなまえと使いかた

デジタル表示部

右ページのデジタル表示部説明欄を参照ください。

時計・温度・タイマー表示ランプ

ストーブを操作したときの状態を表示し、デジタル表示部の表示内容を示します。

タイマーランプ

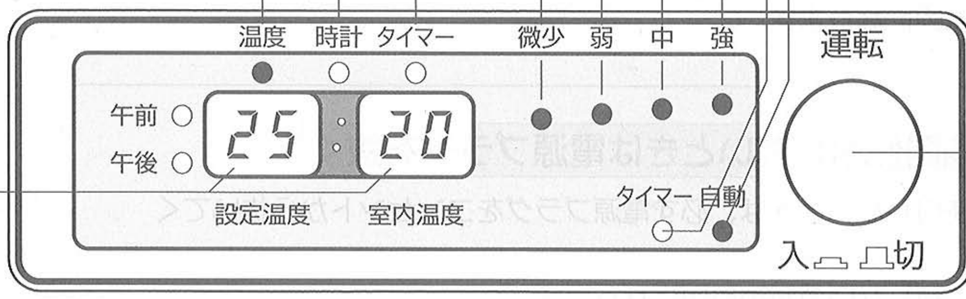
点灯

●タイマー運転待機中。

自動ランプ

点灯

●自動運転中。



操作部

操作部は開閉式。操作扉の **押す** を押して、指をはなすと開きます。



タイマーボタン

タイマー運転を開始します。

13ページ参照

温度・時計合わせボタン

温度の設定、時計の設定に使います。

●**室温設定の場合**

「▲」・「▼」のボタンを押して合わせます。

●**時計設定の場合**

「時」・「分」のボタンを押して合わせます。

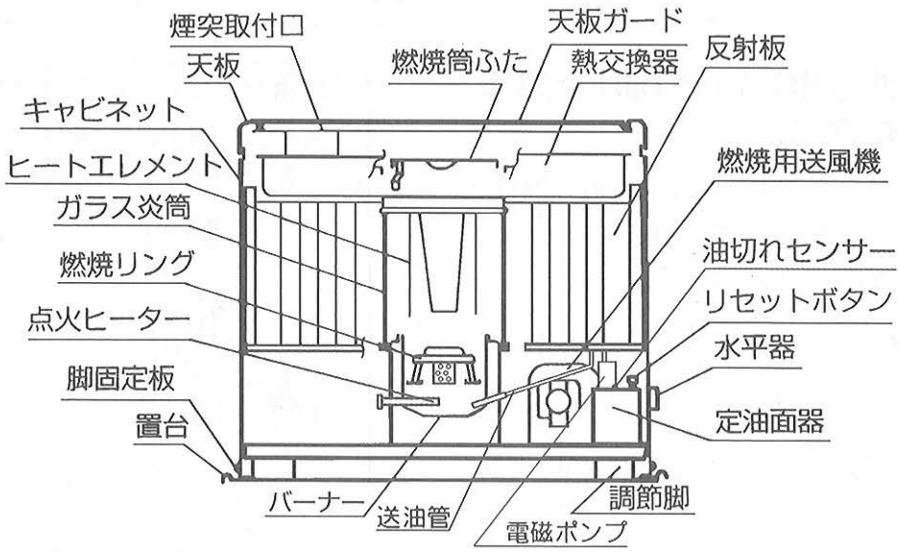
（10・12・13ページ参照）

自動ボタン

自動運転を開始します。

12ページ参照

構造図



運転スイッチ

- ●一度押すと　　「入 ▁」
- ●もう一度押すと「切 ▁」
  になります

点　灯………………運転中
消　灯………………消火中
点　滅……消火後すぐに、再点火したとき。（ストーブが冷えると**「点灯」**に変わります。）

表示切替ボタン

デジタル表示部の表示を、10秒間希望の表示に変えることができます。

→温度表示—現在時刻—
——タイマー時刻←——

火力調節つまみ

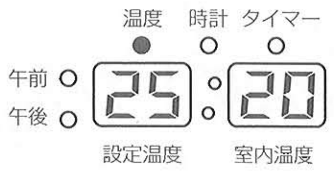
目盛「微少」～「強」の間で、希望の火力位置に合わせます。

11ページ参照

パワーモニター

燃焼状態に応じて、点灯するランプの数が変わります。
全部点灯している時が、強燃焼です。

デジタル表示部



■温度表示

設定温度……
6℃～30℃まで設定温度を選択できます。

室内温度……
－9℃～35℃まで表示します。

■低温表示・高温表示

「Lo」……室内温度が－10℃以下
「Hi」……室内温度が36℃以上



■現在時刻表示

現在の時刻を表示します。



■タイマー運転時刻表示

タイマー運転時刻を表示します。



■自動的に消火したときの表示

自己診断機能により、異常時にEE 0～EE 22, EE EPを表示します。
（16･21ページ参照）

▶使う前の準備

燃料について

●燃料は、灯油（JIS 1号灯油）を必ず使用してください。

ガソリン、シンナー、変質灯油、不純灯油などは、絶対に使用しないでください。
異常燃焼や故障の原因となります。

■変質灯油とは

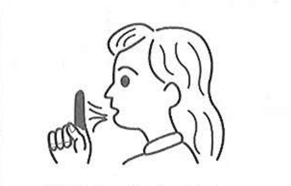
- ●古い灯油。（ひと夏持ち越した灯油）
- ●長期間、日光の当たる場所や、温度の高い場所に保管した灯油。
- ●容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油は変質しやすい。
（必ず灯油専用のポリタンクを使ってください）

■不純灯油とは

- ●灯油以外の油（ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など）がほんの少しでも混入した灯油。
- ●水やごみが混入した灯油。

灯油とガソリンの見分けかたのポイント

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます
（火の気のないところでおこなってください）

○ 灯油	× ガソリン
	
濡れたままです。	すぐ乾いてしまいます。

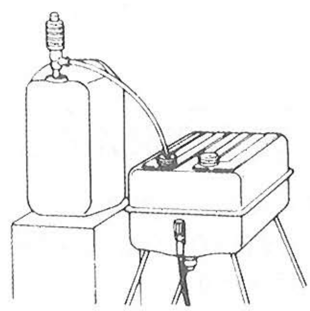
変質灯油・不純灯油の見分けかた

コップに水をいれ、次に灯油をいれて
背後に白い紙をあてます。

水と同じ無色透明なら正常。	少しでも色がついていたら使用しない。
	

給油のしかた

給油の際の手順と注意



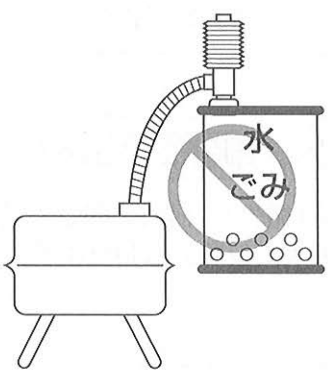
1 油タンクに給油する。

●油タンクの給油口ふたをはずし、灯油を市販の給油ポンプで油量計を見ながら給油してください。

★給油の際は、給油口フィルターを取り去らないでください。

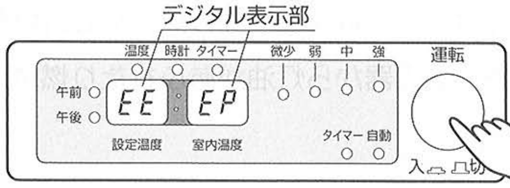
2 給油の際にこぼれた灯油をふきとる。

★給油後、油タンクの底のドレン受けを透視して水やごみがたまっておれば給油口フィルターをいったん取りはずし、給油口から市販の給油ポンプをドレン受け内にさしこみ、水やごみなどを吸いだしてください。



3 給油口ふたを必ず元通りに閉める。

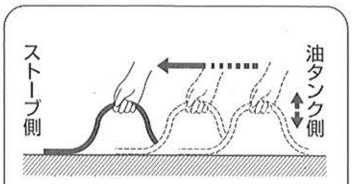
燃料切れの注意



★燃焼中に灯油がなくなると消火します。
このときデジタル表示部に「EE EP」を表示し、異常があったことを知らせます。
※油タンクに灯油があるのに「EE EP」が表示するときは、送油経路のつまり、空気溜りが考えられます。このようなときは 空気抜きの方法 や**「定油面器のリセットボタンのセット」** を参照して送油経路の点検をしてください。

●再運転する場合は、本体温度が充分下がってから油タンクに給油し、**「運転スイッチ」**を一度**「切」**にしてから**「入」** にしてください。

空気抜きの方法



送油管を本体側にたぐって空気を追い出す

★送油管の途中が山形になったり、もつれたりしていますと、送油管の中に空気がたまって油が流れないことがあります。
このようなときは、油タンクのバルブつまみを開き、**「リセットボタン」**を押しておき、送油管を上下にゆっくりとふりながら本体の方へ蛇行させて空気を追い出してください。この空気抜きは数回くり返してください。

●金属製送油管は、上記のように空気の追い出しができません。この場合は、油タンク側と本体側の送油管の接続部を取りはずし、送油管に残っている灯油を完全に抜いて、送油管を取り付け直してください。

点火前の準備と確認

油漏れの確認

●ストーブの置台又は送油経路(送油管の接続部など)に油漏れがないか確かめてください。
万一、油漏れしている場合は必ずお買い求めの販売店に修理依頼、または最寄りの当社支店・営業所にご相談ください。

煙突接続の確認

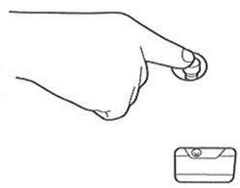
●煙突が正しく接続されているか確認してください。外れていると運転中に排ガスが漏れ大変危険です。

●煙突が雪や小鳥の巣などでふさがれていないか確認してください。

ストーブ周辺の確認

●ストーブの周辺および煙突の周囲に引火物や可燃物を置かないでください。

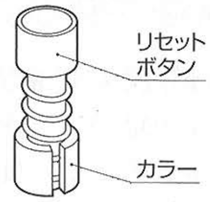
定油面器のリセットボタンのセット



●定油面器の赤いリセットボタンを、下へ1回押してください。
点火するたびにセットする必要はありませんが、シーズン初めや、本体設置場所を変更したとき、又は対震自動消火装置が作動したあと再運転するときは、リセットボタンをもう一度、押しなおしてください。

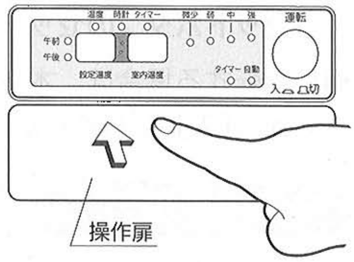
お願い

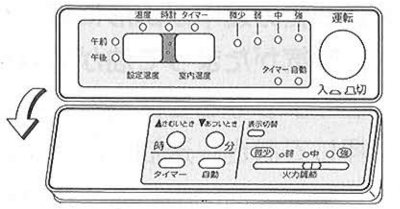
★リセットボタンは５秒以上押し続けたり、カラーを外して押さないでください。
●定油面器から灯油があふれたり燃焼が継続しないことがあります。



操作扉の開閉を確認する。

●操作部は、**「操作扉」**を指で軽く押し込んでから指を離しますと、ゆっくりとでてきます。操作後は軽く押しもどすとロックしてとまります。**「操作扉」**は、操作する時以外は必ず閉じてご使用ください。



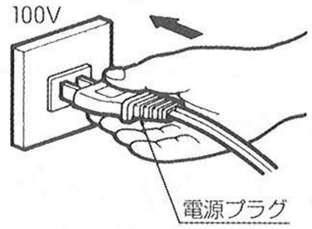


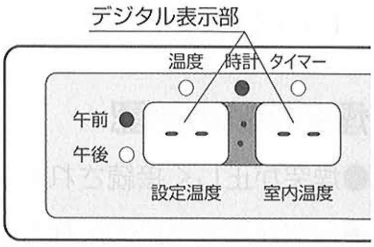
現在時刻のセット

★電源プラグをコンセント（家庭用ＡＣ100V）に確実に差し込む。

●デジタル表示部は右図のように「バー」表示されますので、現在の時刻をセットしてください。

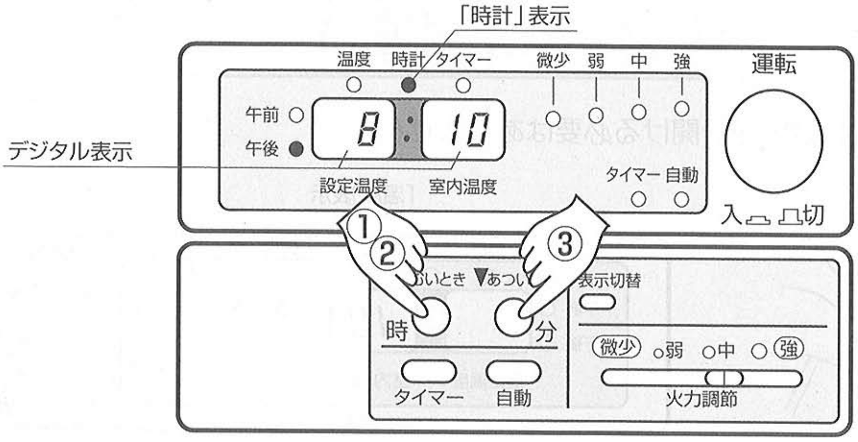
★このときデジタル表示部に「 EE EP 」が表示されるときは、ストーブに灯油がきていませんので点検してください。
このようなときは、８ページの※印を参照して、定油面器の赤いリセットボタンを押すか、または 空気抜きの方法 を参照して、送油経路の空気抜きをおこなってください。





お願い

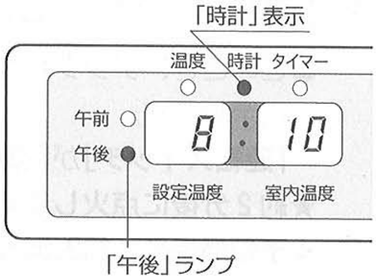
★ストーブに初めて通電したときや、停電後や、電源プラグを抜いて再通電した場合、デジタル表示部は右図のように「バー」表示され、**「時計」**表示が**「点灯」**しますので、現在の時刻を設定してください。



例　現在時刻が午後8時10分の場合

①「時」または「分」のボタンを押す。

●「時計」表示が「点滅」します。



② 現在の時刻をデジタル表示をみながら「時」のボタンを押して午後 8 に合わせる。

③ 現在の時刻をデジタル表示をみながら「分」のボタンを押して 10 に合わせる。

●**「時」**のボタンは１度押すごとに１時間、**「分」**のボタンは１度押すごとに１分間ずつ進みます。押し続けると連続的に進みます。

★**時刻合わせをする場合は、「時計」表示が「点滅」している間（10秒間）に「時」・「分」のどちらかのボタンを押してください。**

★午前の時刻に合わせる場合は、**「午前」**ランプが**「点灯」**していることを確認してください。

★時刻合わせができなかった場合は、もう一度**「時」**または**「分」**のボタンを押してやり直してください。

④「時計」表示が「点滅」から「点灯」にかわり、現在時刻の設定が完了します。

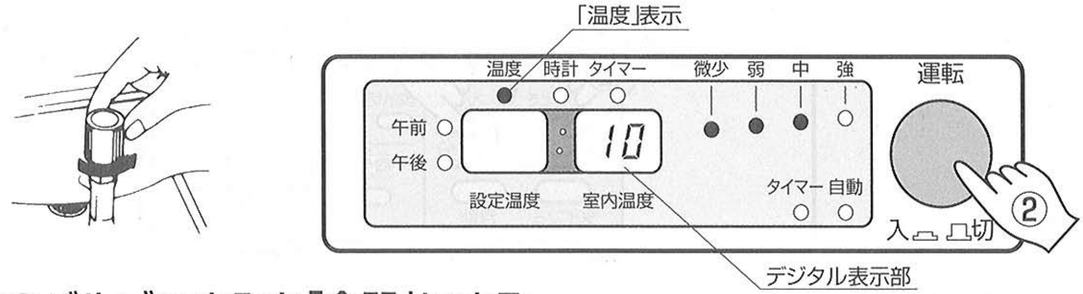
お願い

ストーブの時刻表示が狂ったり、タイマー点火時刻が狂ったりする場合は、コンセントを一度抜いてから、もう一度差し込み直してみてください。

使用方法

点火（通常運転）

★点火操作をする場合は、**「操作扉」**を開ける必要はありません。



① 油タンクのバルブつまみを「全開」にする。

② 「運転スイッチ」を押して「入」にする。

●このとき、デジタル表示部の**「時計」**表示が**「温度」**表示に変わりデジタル表示に現在の室内温度を表示します。
「運転スイッチ」が**「点灯」**します。

★約２分後に点火しますが、その後約3分間は予備燃焼します。

★予備燃焼後、約2.5分間は、火力は「弱燃焼」しますので火力調節はできません。

お願い

●ご購入されて初めて使用されるときに、製品の塗料やパッキンなどの焼けるような臭いがする場合があります。
このような場合は、お部屋の窓を少し開け、半日から１日程度、「強」運転をしてください。

★１～２回点火操作をして、点火しなかった場合、何回も点火しないでください。バーナー内に灯油がたまります。販売店にご連絡ください。

★万一灯油がたまったことに気付かずに点火したときは、「運転スイッチ」を押しなおして「切」にし、たまった灯油が燃えつきるまで待ってください。

●このとき、電源プラグをコンセントから抜かないでください。

●点火時には、ガラスが曇りますが、これは排ガス中の水分の蒸気によるものです。

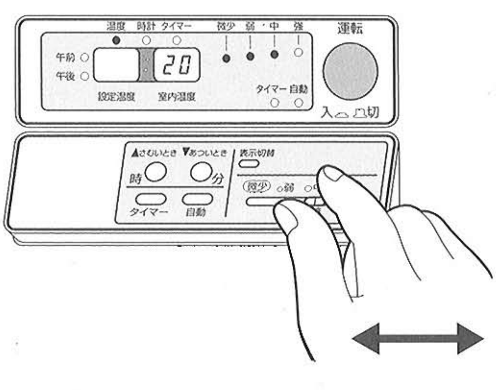
●室温が０℃以下の場合は、点火までの時間は約６分になります。

火力調節（手動運転）

●火力調節は、**「火力調節つまみ」**を目盛**「微少」**～**「強」**の間で自由に調節してください。
「パワーモニター」が、目盛の位置に応じて点灯します。

お願い

●点火後約６分間は、予備燃焼のため **「弱」** 燃焼しますので、火力調節はできません。



室温の調節（自動運転）

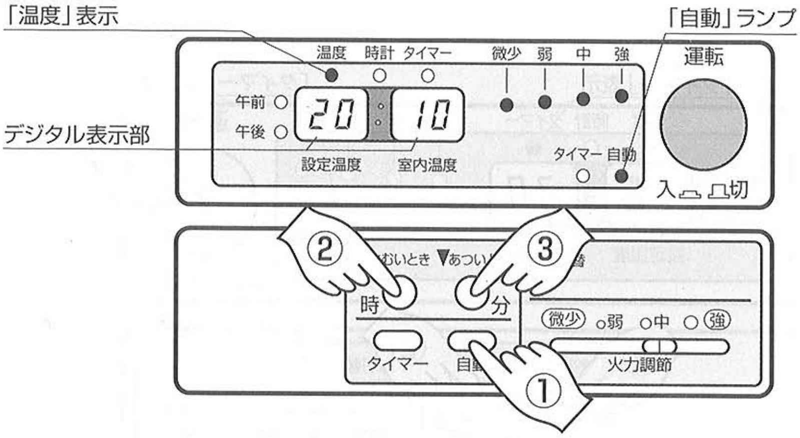
■**自動運転は、お部屋の温度をできるだけ一定に保つための運転方法です。**

●自動運転時には、室内温度が設定温度になるまで**「強燃焼」**を続け、室内温度が設定温度になると**「弱燃焼」**に切替わり、設定温度を1℃超えると**「微少燃焼」**に切替わります。

●さらに設定温度より約2℃上昇しますと、自動的に**「消火」**します。また設定温度付近まで下がりますと、自動的に**「再点火」**します。

★**室温の調節は、自動運転をしている場合でしかできません。**

●温度設定しない場合は、*20*(20℃)が設定温度となります。このとき、室内温度が22℃以上の場合は運転しません。
設定温度を上げてください。
室内温度が設定温度より2℃以上高い場合は運転しません。



① 操作扉を開け、「自動ボタン」を押す。

●**「自動ランプ」**が**「点灯」**しデジタル表示部に、現在の室内温度と設定温度 *20* が表示され、自動運転となります。

② 温度を上げるとき。

●デジタル表示を見ながら、**「▲さむいとき」**ボタンを押します。

③ 温度を下げるとき。

●デジタル表示を見ながら、**「▼あついとき」**ボタンを押します。

★温度設定をする場合は、「温度」表示ランプが点滅している間におこなってください。設定できなかった場合はもう一度やり直してください。

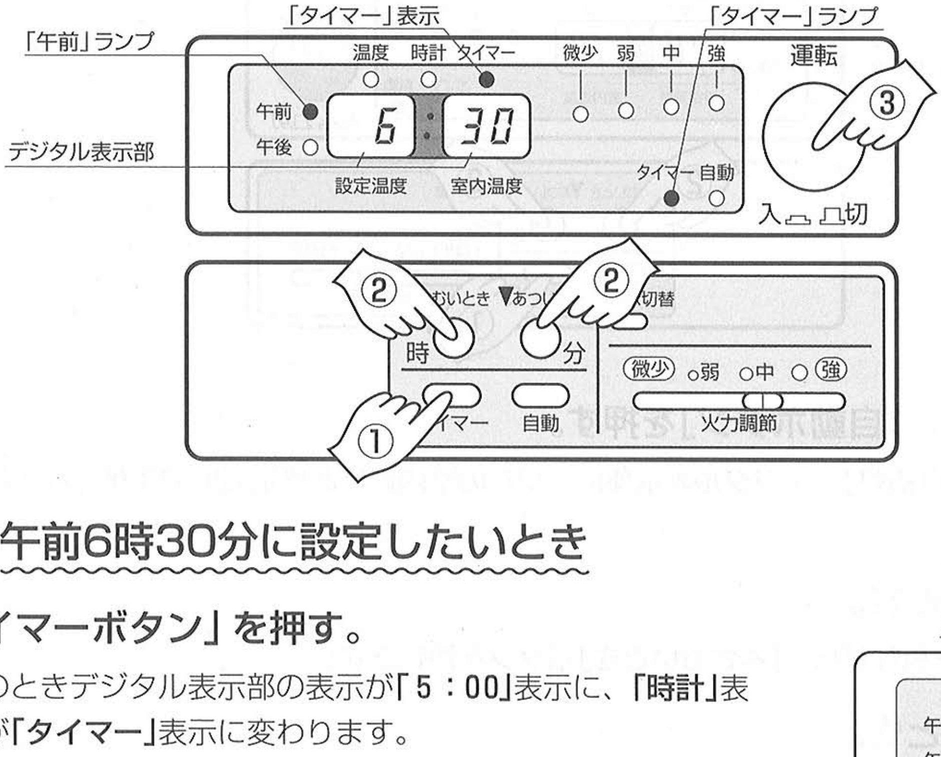
●**自動運転を解除する場合は、「自動ボタン」をもう一度押してください。**

お願い

- 一度設定温度をきめますと、その設定温度を記憶していますので、変更をしない限り、**「消火」**後再運転する場合も同一設定温度になります。
- 温度設定は、6℃～30℃までの間で設定できます。室温表示は、－9℃～35℃まで表示します。
- 室温表示は室温が－10℃以下の場合「Lo」、36℃以上の場合は「Hi」と表示します。
- 温度調節は、ストーブの位置や部屋の大きさなどで、必ずしも、ストーブの表示温度と室温とは一致しません。このような場合は、本体背面のルームサーミスタを、33ページの **ルームサーミスタの配線(移動)** を参照して、適切な位置に付け替えてください。

タイマー運転のしかた

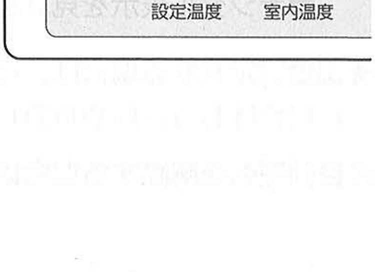
タイマー運転をするときは、9ページ **現在時刻のセット** に従って、時刻合わせをしてからでないと、運転できません。



例 午前6時30分に設定したいとき

①「タイマーボタン」を押す。

- このときデジタル表示部の表示が**「5：00」**表示に、**「時計」**表示が**「タイマー」**表示に変わります。



② デジタル表示を見ながら「時」のボタンを押して午前 6 に、「分」のボタンを押して 30 に合わせる。

- このとき**「タイマー」**表示が**「点滅」**に変わります。

●**「時」**のボタンは１度押すごとに１時間、**「分」**のボタンは１度押すごとに１分間ずつ進みます。押し続けると連続的に進みます。

●**タイマー時刻合わせをする場合は、「タイマー」表示が「点滅」している間(10秒間)に、「時」または「分」ボタンを押してください。**

★電源プラグを抜いたり、停電した場合は再度９ページの **現在時刻のセット** に従って、時刻合わせをし直してください。

③「タイマー」表示が、「点滅」している間に「運転スイッチ」を押して「入」にする。

●このとき**「タイマーランプ」**が**「点灯」**し、セットが完了します。

●約10秒ほど経過すると、デジタル表示は現在の時刻を表示します。

お願い

★タイマー運転は、一度タイマー運転時刻を設定すれば変更しない限り、**「タイマーボタン」**を押して**「タイマー」**表示の**「点灯」**中(約10秒間)に、**「運転スイッチ」**を**「入」**にするだけで同一時刻で設定が完了します。

★タイマー運転時刻を変更する場合は前記と同手順でおこなってください。

★通常運転中に**「タイマーボタン」**を押すと、**「消火」**して**「タイマー運転」**の状態になり、タイマー運転時刻に自動的に点火します。現在時刻がセットされていないときは**「タイマー運転」**の状態になりません。再度９ページ **現在時刻のセット** を読んで、時刻合わせからおこなってください。

★タイマー運転時刻の確認は、消火時に**「タイマーボタン」**を押すと、10秒間表示します。

★タイマー運転操作後に停電があったときや、ストーブを揺らして対震自動消火装置が作動したとき、電源プラグを抜いたときは点火しません。再度９ページ **現在時刻のセット** を読んで、時刻合わせからおこなってください。

★タイマー運転をする場合は、周囲に可燃物があったり、その他危険な状態のないことを確認してからセットしてください。

★お出かけのときは、タイマー運転しないでください。

タイマー運転の解除のしかた

タイマー運転操作をした後、タイマー運転時刻前に通常運転をおこないたい場合。

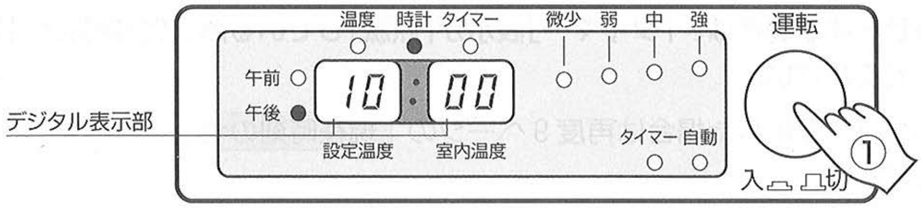
①「運転スイッチ」を押して「切」にする。

→[タイマー運転の解除]

②「運転スイッチ」を再度押して「入」にする。

→[通常運転開始]

消火



①「運転スイッチ」を押して「切」にする。

「運転スイッチ」が「消灯」し、デジタル表示部は現在の時刻を表示します。

お願い

★ストーブの消火は電源プラグをコンセントから抜きとったり、ストーブをゆすって消してはいけません。

★外出するときは、必ず消火してください。

★長期間留守にするときは、必ず電源を切ってください。

消火後再点火するときの注意

●消火後すぐに再点火すると、異常音が出ることがありますので、しばらく(約10分間)待ってから再点火してください。

安全装置

- **安全装置が作動するのは何らかの異常があるときですから、下記の処置をしても正常にならないときは、お買い求めの販売店にご相談ください。**
- 安全装置が作動した場合は、「運転スイッチ」を押し「切」にしてから、下記の処置をおこない、再度「運転スイッチ」を押して「入」にしてください。（再点火操作）

安全装置	はたらき	処置
対震自動消火装置 EE 5	●運転中にストーブ本体が地震（震度約５以上）や強い振動、衝撃を受けた場合、火災などの危険を防ぐために自動的に運転を停止します。	★地震によって作動した場合、周囲の可燃物、機器の損傷、油漏れ、煙突の外れなど異常がないことを確認してから再点火してください。
点火安全装置 EE 2	●点火ヒーターなどの赤熱不足による点火不良。 ●点火ヒーター・電磁ポンプ・燃焼用送風機などの故障により点火しないときに、運転を停止します。	★点火ヒーターの故障が原因で運転を停止したときはバーナー底に灯油がたまります。たまった灯油をふき取ってから、ご使用ください。（販売店にご相談ください）
停電安全装置 EE 0	●運転中に停電や電源プラグを抜くなどして電源が切れたときは、自動的に運転を停止します。 ●再び通電されても運転しません。 ●**タイマー運転中に停電があった場合、タイマー運転は解除されます。**	★再点火操作をします。 ★現在時刻の設定とタイマー運転の設定をやりなおします。
燃焼制御装置 EE 6	●燃焼中に炎が消えたとき、自動的に運転を停止させる安全装置です。	★再点火操作をします。

EE 表示は安全装置が作動したときのエラー番号表示です。
詳しくは、21ページを参照してください。

お願い

必ずストーブを消火し、本体温度が充分下がってからおこなってください。

使いかた

日常の点検・手入れ

点検・手入れのときの注意

★点検・手入れをおこなうときは、ストーブを消火し、ストーブが充分冷えてから、必ず電源プラグを抜いておこなってください。
★ガードを開ける時は、必ず手袋をはめておこなってください。。
★電装部品や燃焼部の取りはずし、分解はおこなわないでください。

使用のたびに

★周囲の状態

●ストーブの周囲は、常に整理、清掃し、燃えやすいものを置かないようにしてください。
●ストーブはいつも清潔に掃除してください。汚れたままのご使用は危険のもとですし、ストーブのいたみを早めます。

★ほこり

●ストーブについたほこりや汚れは、掃除機で吸い取ったり固くしぼった濡れ雑巾などでふき取ってください。

★臭気・すす

●燃焼中に排ガスのにおいがしたり、煙突からすすが出ていないか確認してください。
異常があれば販売店に連絡してください。

★油漏れ、油のたまり、油のにじみ

●送油経路やストーブに油漏れかまたは油のたまり、油にじみがあるかどうかを調べる。給油のときこぼれた灯油はよくふきとってください。
万一油漏れによって油のたまり、油にじみが生じているときは、消火操作をし、原因をたしかめ防漏処置をし、油漏れがなくなったことを確認してから点火操作をしてください。

★送油管

●送油管から油漏れがないか点検し、亀裂などがあれば交換してください。
●ゴム製送油管は2シーズンに1度は新しい物に交換されることをおすすめします。
●屋外配管をする場合は、銅配管でおこなってください。

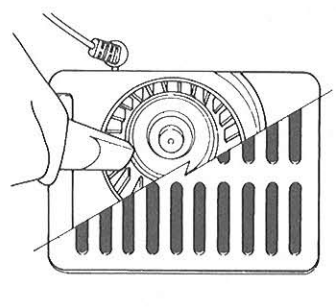
★煙突

●外気温が低い場合、煙突内の結露水が凍結して煙突をふさぎ、排ガスが室内に漏れることがあり危険ですので、ときどき煙突を点検してください。

1箇月に1回以上

★送風機ファンのほこり

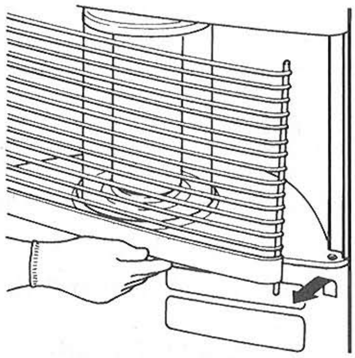
燃焼用送風機のファンにほこりがついたとき、ブラシや電気掃除機などで取り除いてください。
●ストーブ背面の点検扉を固定しているネジをはずし、点検扉をはずしてから掃除してください。掃除後は、必ずもとどおりに点検扉を取り付けてください。
●ファンを変形させないように注意してください。



★ガラス炎筒

ガラス炎筒にすすによるよごれがあれば、やわらかい布などで拭いてください。(販売店にご相談ください。)
●ガラス炎筒には絶対に水をかけたり、衝撃をあたえたりしないでください。

★反射板のほこり（必ず手袋をはめておこなってください）



●ストーブの反射板にほこりがたまった場合は、ガードの右端を上方へ持ち上げ、手前へ引いてガードを開いてから、乾いた布で、反射板にたまったほこりをふき取ってください。

3箇月に1回以上

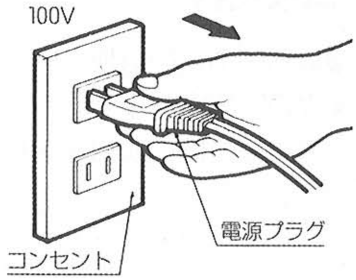
★油タンク

●給油口フィルターがごみやほこりで目づまりしますと、給油時に給油口よりあふれ出たりします。給油口フィルターを取出して、付着したごみやほこりを取り除いてください。

★油タンク内の水

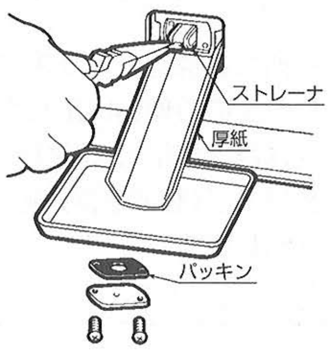
●油タンクに水やごみがたまっているようでしたら、ドレン抜きや、油タンクのストレーナなどからたまった水やごみを取り除いてください。

★電源プラグ・コンセント



●電源プラグ、コンセントにほこりや汚れがたまると火災の原因になることがあります。3箇月に1～2回電源プラグをコンセントから抜いて、付着したほこりや汚れを取り除いてください。

★定油面器のストレーナ



●定油面器のストレーナは約3箇月に1回と、ストーブの格納（シーズンオフ）のとき、次のように灯油で洗浄してください。

①油タンクのバルブを閉める。

②定油面器のストレーナの掃除口に容器をあてがっておき、2本のねじをはずして、ストレーナをぬきだす。

③ストレーナを灯油で洗浄する。

④ストレーナをもとどおりに取り付け、こぼれた灯油をふきとる。

⑤油タンクのバルブを開く。

⑥油漏れがあるかないかを点検する。

1シーズンに1回以上

★パッキン

●燃焼中、室内ににおいがこもるような場合は、とくに注意して点検してください。

- ガラス炎筒とバーナーの接続部、ガラス炎筒と熱交換器の接続部
- 点火ヒーターの取り付け部

★点火ヒーター

●点火ヒーター及びパッキンが古くなり、切れたり、すきまなどがあると、点火不良及びガス漏れの原因になります。（販売店にご相談ください）

日常の点検・手入れ

★燃焼リング、バーナー

●燃焼リング、バーナーは高温になりますので焼損することがあります。ときどき点検し、変形や焼損していたら早めに修理してください。(販売店にご相談ください)

★煙突

●煙突は、約4箇月に1回程度の割合でいったん取りはずし、排気流路部分のなかのすすによるよごれなどを点検し、ほこりやすすがたくさんたまっておれば、軽くざっと掃除してください。
少々ほこりやすすがたまっている程度では、掃除をおこなう必要はありません。

★耐熱塗装の補修

●熱交換器は耐熱塗装を施していますが、耐熱塗装膜が酸化してなくなる場合があります。
その場合は、市販の耐熱塗料のスプレーで、火気のない所で補修しますときれいになります。

地震などの災害が発生したときの点検について

●地震などにより製品に振動、衝撃が加わったときは、運転をする前に必ず次の点検を実施してください。

点検内容

●機器の損傷の点検　●煙突回りの外れ、漏れの点検　●送油経路からの油漏れの点検

★点検で異常がみつかったときや、点検したのちに使用しているとき、排ガスのにおいがしたり目がしみる場合は、使用を中止して、販売店または別紙の お客様相談窓口一覧 に修理依頼をしてください。

定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、お買い上げ店、又は修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL03-3499-2928)でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる店、当社支店・営業所などに点検依頼されることをおすすめします。

定期点検の内容

項　目	内　容
送油経路の点検・掃除	●定油面器・ストレーナの掃除　●油タンクの水抜き ●送油経路の油もれ
機能部品の点検・確認	●電気配線・安全装置のはたらき　●操作部品・動く部品のはたらき
消耗しやすい部品の点検・交換	●点火ヒーター、燃焼リング
掃除・点検・整備	●本体内部、燃焼用送風機　●各接続部のパッキン ●煙突の接続、つまり

故障・異常の見分けかたと処置方法

故障・診断チェック表

★この表以外に不具合があるときは、お買求めの販売店にご相談下さい。

原因 ＼ 現象	運転スイッチが点灯しない	点火しない	炎が大きくならない	黄火でもえる	使用中室内がにおう	使用中立消えする	置台に油にじみがある	びびり音が出る	ガラスがくもる	処置方法
電源プラグをコンセントに差し込んでいない	○									電源プラグをコンセントに差し込む
停電した	○ EE0					○ EE0				停電復帰後点火し直す
対震自動消火装置が作動した		○ EE5				○ EE5				再点火操作をし定油面器のリセットボタンを押す
油タンクに水が入っている		○ EE2	○			○ EE6				水混入の灯油をすっかりぬきとる
油タンクに灯油がない		○ EEEP	○			○ EEEP				灯油を入れる
不良灯油を使用した		○ EE2	○	○					○	販売店にご相談ください
配線不良がある	○		○	○		○			○	〃
コントローラー不良	○	○	○	○		○			○	〃
ねじ類の締めつけ不良 組み立て不良					○		○	○		〃
電磁ポンプ不良		○ EE2	○	○	○	○ EE6			○	〃
点火ヒーター不良		○ EE2								〃
煙突のドラフトが強すぎる						○			○	ドラフトレギュレーターを取り付ける

●燃焼中「カチカチ」音がすることがありますが、電磁ポンプの運転音で異常ではありません。

●この表の「EE」は、21ページ デジタル表示の見方 を参照してください。

デジタル表示(エラー表示)の見方

★ストーブの運転中に異常が起こり消火した場合、下記のように、デジタル表示部に**「エラー表示」**しますので処置をしてください。

エラー表示	原因	処置方法
EE 0	●運転中に電源が切れました。 ●タイマー点火待機中に電源が切れました。	●電源プラグの差し込みを確認し、再点火操作をしてください。
EE 1	●ルームサーミスタが断線しました。	●販売店まで連絡してください。
EE 2	●点火安全装置が作動しました。 ●バーナーサーミスタが断線しました。	●原因不明の場合は、販売店まで連絡してください。
EE 5	●対震自動消火装置が作動しました。	●作動した原因を取り除き、再点火操作をしてください。
EE 6	●運転中に消火しました。 ●バーナーサーミスタが断線しました。	●原因不明の場合は、販売店まで連絡してください。
EE 7	●室温が36℃以上になりました。	●室温が下がるのを待って、再点火操作をしてください。 ●温度調節をしてください。 ●原因不明の場合は、販売店まで連絡してください。
EE 8	●燃焼用送風機が故障しました。	●販売店まで連絡してください。
EE 15	●スタート時、バーナーが高温でした。 ●バーナーサーミスタが短絡しました。	●販売店まで連絡してください。
EE 22	●着火ミスを2回しました。	●販売店まで連絡してください。
EE EP	●ストーブに灯油がきていません。	●灯油を入れてください。 (7ページ 給油のしかた 参照) 灯油がある場合は送油経路を点検してください。

部品交換のしかた

⚠注意

★分解修理の禁止

故障、破損したら使用しないでください。不完全な修理や改造は危険です。



短期間に消耗する部品は特にありませんが、ガラス炎筒、定油面器、燃焼リング、点火ヒーター、パッキンなどの交換部品が必要な場合は、お買求めになった販売店にご相談ください。

★部品交換の際は、必ず純正の補修部品をお使いください。純正の部品以外を使用して万一故障や事故が発生した場合、当社は責任を負いかねます。

不完全な修理は危険です。修理をお受けになる場合は、財団法人日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店で修理されることを推奨します。

保管のしかた(長期間使用しない場合)

●ストーブを保管する場合は、17ページ **日常の点検・お手入れ** の項を参照して、ストーブの手入れをしてから保管してください。又いたんでいる箇所は修理をしてから保管してください。
●格納・保管場所は、湿気・火気・高温などの悪い影響のおよびにくい所であって、しかもストーブの上には重量物をのせたり、人が乗ったりしないよう配慮してください。

1 **ストーブを長期間使用しないで保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。**
●ストーブを使用する季節が終り格納するときは、油タンクの灯油を市販の給油ポンプで全部抜き取り、定油面器のストレーナーも取り出して灯油で洗浄する。(18ページ参照)

お願い

油タンクの灯油を抜くときは、送油管の灯油を完全に抜いてください。灯油が残っていると翌シーズンに使用するとき、つまって灯油が流れなくなります。(8ページ参照)

2 **ストーブや油タンクの表面をふく。**
●固くしぼった濡れ雑巾や、薄めた中性洗剤で汚れを取り、乾いた布で水気をふき取ってください。
★シンナー、ベンジンなどでふくのはおやめください。塗装が変色したり、危険です。

3 **本体にほこりがたまらないよう、適当なカバーをかける。**

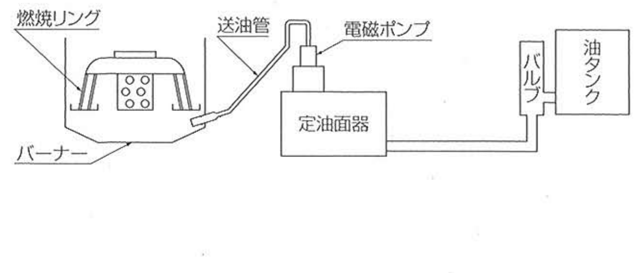
4 **附属品と「取扱説明書・工事説明書」・「保証書」も紛失しないよう同時に保管しておく。**

仕様

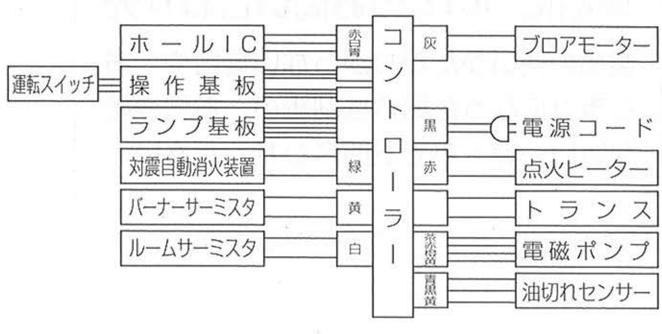
型式の呼び	HR-682D		質量	約21kg
種類	半密閉式石油ストーブ・ポット式 強制通気形・自然対流形		電源電圧及び周波数	100V 50/60Hz
点火方式	電気点火		定格消費電力	点火時240/240W・燃焼時14/16W 最大680/680W(点火初期に短時間発生)
使用燃料	灯油(JIS1号)		煙突の呼び径	106㎜
燃焼状態	最大	最小	電流ヒューズ	5A
燃料消費量	0.984L/h(目盛 強)	0.198L/h(目盛 微少)	安全装置	対震自動消火装置、点火安全装置
発熱量	33940kJ/h(8110kcal/h)	6820kJ/h(1630kcal/h)		停電安全装置、燃焼制御装置
熱効率	最高72%(目盛 強)	最低70%(目盛 微少)	附属品	置台(1個)、ゴム製送油管(1本)(1m) ホースバンド(2個)、天板ガード(1個) ガード遮熱板(1個) 置台用止めねじ(2本)、木ねじ(1本)
暖房出力	6.79kW(5840kcal/h)	1.33kW(1140kcal/h)		
外形寸法	高さ593㎜、幅700㎜、奥行410㎜(置台を含む)			

ご注意 **表の熱効率は、煙突の通気力(ドラフト)が、強燃焼時−0.8mmH_2O、微少燃焼時−0.4mmH_2Oで、使用した場合です。**

■送油経路図



■配線図



アフターサービス

保証について

●添付しております保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認のうえ保管してください。

★保証期間はお買い上げの日より１年間です。

●保証書の記載内容によりお買い上げの販売店が修理いたします。その他の詳細は保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎてからの修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。
お客様のご希望により有料修理いたします。

この取扱説明書と本体に表示されている禁止事項・注意事項および通常使用に反して使用された場合の故障、事故につきましては、保証いたしません。

補修部品の保有期間について

★半密閉式(POT式)石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後７年です。

●性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

転居される場合

●このストーブは電源周波数 50 、60 Hzとも同一仕様です。

★電源周波数の異なった地域への転居でもそのままお使いいただけますが、高地への転居、高地からの転居は再調整が必要ですので別紙の お客様相談窓口一覧 までご相談ください。

⚠注意

★分解修理の禁止

故障、破損したら使用しないでください。不完全な修理は、危険です。



故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてわからない場合は、お買い上げ販売店、またはもよりの お客様相談窓口一覧 (別紙参照)までお問い合わせください。

下記の事項をご連絡ください。

①型式　HR-682D
②故障の状況(できるだけ詳しく)
③お買上げ年月日
④おなまえ、おところ、電話番号

製品についてのお問い合わせ先

製品の使いかたがわからない場合や、おこまりになった場合は別紙の お客様相談窓口一覧 までお問合わせください。

▶据付けについて

据付け場所の選定及び標準据付け例

●据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。 工事編 の ▶安全のために必ずお守りください をお読みになり販売店又は据付業者とよくご相談してください。また、 標準据付け例 については、27ページを参照してください。

据付け後の確認

●据付けが終りましたら、もう一度、 工事編 の ▶安全のために必ずお守りください をお読みになり、 工事編 に記載されているとおり据え付けられているかどうかを確認してください。

試運転

●試運転は、販売店又は据付業者とご一緒に必ずおこなってください。

運転準備

1 7ページ 給油のしかた 、8ページ 点火前の準備と確認 に従って運転準備をしてください。

2 電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。このときデジタル表示部に「EE EP」が表示されるときは、ストーブに灯油がきていません。ストーブに灯油が流れてくると自動的に「- - - -」(バー表示)に変わります。もし3分以上待ってもバー表示に変わらないときは、もう一度7ページ 給油のしかた 、8ページ 点火前の準備と確認 に従って運転準備をやりなおしてください。

運転

1 11ページ ▶使用方法 に従って運転してください。

2 初期運転時の異常現象
●開梱して始めて使用したとき、防錆油とか塗装やほこりが乾燥したり、焼けたりすることによって、ストーブから約20分間位、煙やにおいが出ることがありますが、ご使用には全く支障はありません。

3 正常運転の目安
●正常運転時のバーナーの炎の色は、黄火がときどきまじる青炎です。

お願い

煙突の設置条件が悪いと、黒煙を出して燃えたりガラス炎筒が曇ったりします。又、とくに春先や秋口で外気温が高い時期には、ドラフトが不足して点火時ににおいがすることがあります。煙突の設置を点検し、34ページ ▶煙突の取り付けを参照して正しく煙突を設置してください。

4 消火の手順
●15ページ 消火 に従って消火をしてください。

安全のために必ずお守りください

●ここに示した事項は、⚠警告、⚠注意に区分しています。

⚠警告	作業を誤った場合に設置工事作業者が、又は設置工事の不具合によって使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。
⚠注意	作業を誤った場合に設置工事作業者が、又は設置工事の不具合によって使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

「⚠注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載してありますので、必ず守ってください。

★説明文中の お願い 事項は、本機を誤りなく使用していただくための注意事項が記載してありますので、お守りください。

●イラスト(まんが)の横にある ⃠マークは「禁止」、❗マークは「強制」、⚠マークは「注意」を表しています。

⚠警告

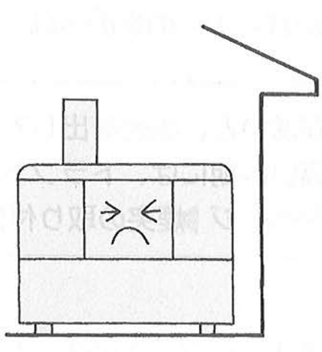
★据付けや移動は、販売店へ依頼すること

ご自分で据付けをされ不備があると感電や火災の原因になります。

★火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る。

★屋内排気禁止

必ず屋外に排気してください。
排ガスが室内に充満して危険です。



⚠警告

★外れ危険

煙突を確実に接続してしっかりと固定してください。
風、振動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

⚠注意

★次の場所には据え付けない

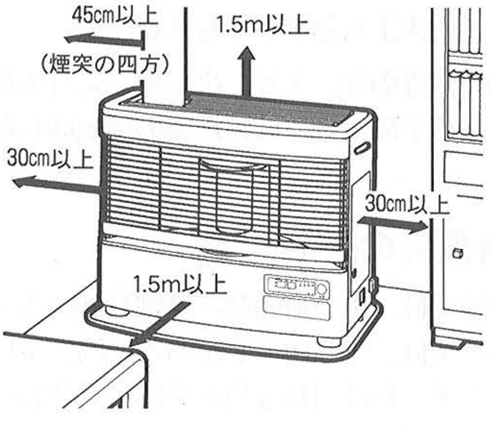
★火災や予想しない事故の原因になります。

- ●水平でない場所、不安定な場所
- ●不安定な物を乗せた棚などの下
- ●可燃性ガスの発生する場所又はたまる場所
- ●燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所、又は換気のおこなえない場所
- ●付近に燃えやすいものがある場所
- ●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- ●マントルピース内
- ●温室、飼育室など人のいない場所
- ●フロンガス、塩化水素ガスなどのハロゲン系化合物のガスや溶剤を使用している、理・美容院、メッキ・塗装工場、電子部品組立工場、繊維関係工場など塩素ガス等の影響により錆が発生することがありますのでご使用はさけてください。
- ●塵やほこりの多い場所
  燃焼用送風機のファンにほこりがつまり、異常燃焼を起こすおそれがあります。

★可燃物との距離は離す

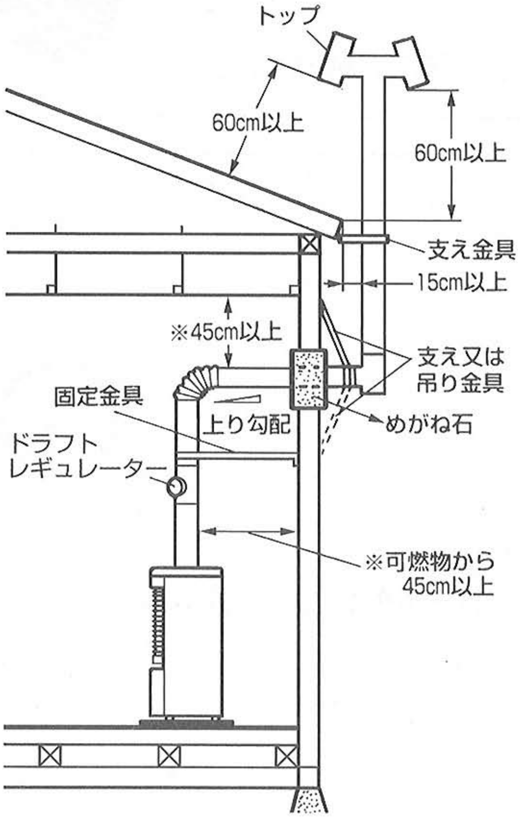
★右の図に示すような寸法内に、可燃物や障害物のない場所で使用してください。

- ●ストーブの上に物が落下しない場所で使用してください。
  落下物により火災が起きるおそれがあります。
- ●家具等からは充分な距離を取ってください。
  （熱で変形や変色、自然発火することがあります。）



⚠注意

★標準据付け例



お願い

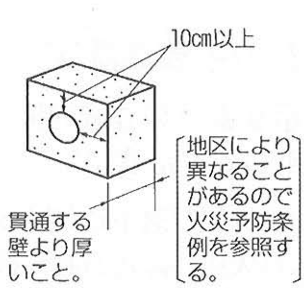
- 煙突の先端から水平距離１m以内に建物の軒がある場合は、その軒から60cm以上高くすること。煙突の先端から１m以内に建物の開口部（窓）がないこと。
- （※）45cm以上の寸法は、煙突が本体から1.8mをこえる場合は15cm以上です。
- 煙突は、固定金具で1.5m～２m間隔で固定する。

★ストーブに附属している置台の上に据え付ける



★家屋貫通部の注意

- 煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は、必ずめがね石を使用する。
- 小屋裏、天井裏などにある部分は、金属以外の不燃材料で防火上有効な被覆をする。
- 可燃性の壁、天井、小屋裏、天井裏などを貫通する部分及びその付近では、煙突の接続はしない。





★煙突の固定

- 煙突は、風や振動などで倒れないように、支え金具や支え線などで固定する。
- 煙突は、1.5m～２mおきに固定金具（市販品）で固定し、自重を支える部分は、支えまたは吊り金具で堅固に支持してください。

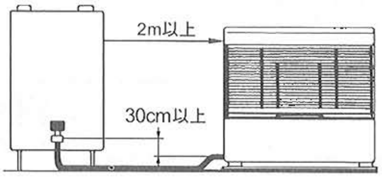


⚠注意

★油タンクとの距離を離す

●油タンクはストーブより２m以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。

★屋外タンクでの使用を前提とし、附属のゴム製送油管の長さは1mです。**別売のゴム製送油管（※11070915・長さ3m）**をご使用ください。

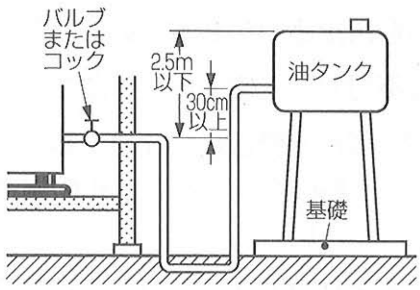


●油タンクは、熱・振動・衝撃の少ない場所に据付ける。

●据置式油タンクは、不燃材の床上に据え付けること。
床置式の油タンクは、たたみ・じゅうたんなどの上に据付けないこと。

●油タンクの送油バルブ（油の出口）と本体の送油管との落差は30cm以上になるように置いてください。
オイルヘッド面との落差は、最大2.5m以下にしてください。
油が定油面器よりあふれ出ることがあります。

●室外設置の油タンクの場合は、右の図の落差をとってください。



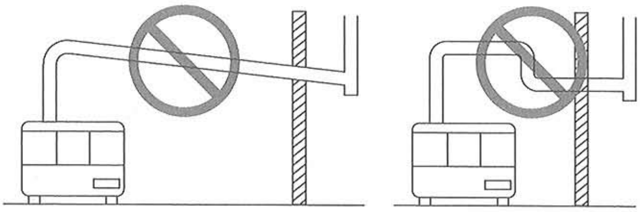
★ゴム製送油管の屋外使用禁止

ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

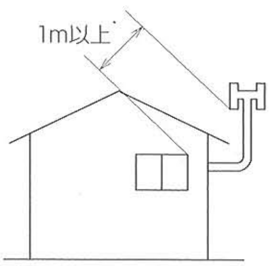
★煙突の点検

取り付け終わったら、もう一度点検してください。次のような取り付けは危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがありますので必ず修正してください。

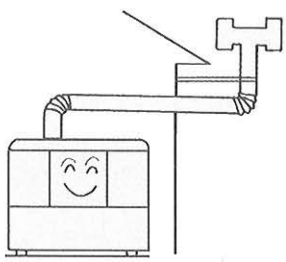
●下り勾配、下向き曲がり禁止



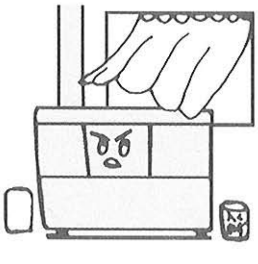
●トップと開口部は1m以上のこと



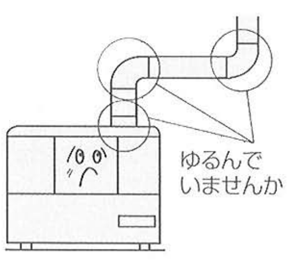
●煙突は必ず取り付ける



●可燃物近接禁止



●接続部のゆるみ点検



据付け

▶開こん

開こんの際の注意

1 包装箱から製品を傷つけないように取り出し、梱包材などを取り除いてください。

2 その他お使いになる前に、製品の輸送中に生じた小ねじのゆるみや、はずれなどがないかを調べてください。

附属品と取扱上の注意

●**置台1個**：ストーブの置台として必ず使用してください。

●**置台用止めねじ2本**：ストーブと置台との固定に必ず使用してください。

●**天板ガード1個**：火災予防のために必ず取り付けてください。

●**ゴム製送油管（長さ1m）1本**：給油コックとストーブとの接続に使用してください。

★屋内タンクをご使用の場合は、**別売ゴム製送油管（※11070915・長さ3m）**を使用してください。

●**ホースバンド2個**：ゴム製送油管の締め付けに使用してください。

●**ガード遮熱板1個**：側面との距離がないとき、前面ガードに取り付けてください。

●**木ねじ1本**：ルームサーミスタを壁などに固定する場合に使用してください。

据付け場所の選定

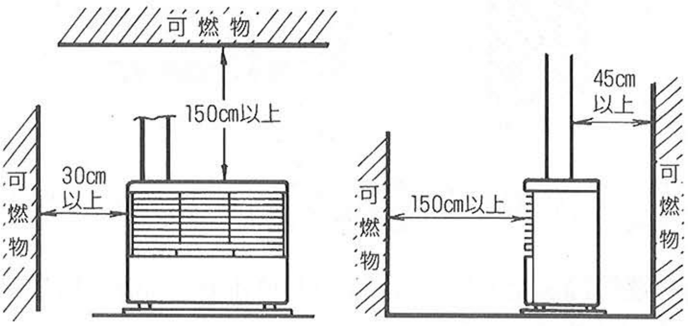
1 床面

●ストーブを据え付ける床面は、強い振動や衝撃がなく、ストーブの重量に充分耐え、安定していることが必要です。

●ストーブは、水平になるように置いてください。ストーブを水平に置きませんと、異常燃焼や対震自動消火装置の誤作動の原因になることがあります。

2 可燃物との距離

●附属品のガード遮熱板は、壁面の可燃物の温度を上げないために必要ですので、20cmまで可燃物に近づける場合は、必ず、前面ガードの可燃物に近い方に取り付けてください。（31ページ ガード遮熱板の取り付け 参照）
ガード遮熱板を取り付けない場合は、ストーブ側面と可燃物との距離は30cm以上離してください。



3 煙突の設置

●煙突は必ず屋外へ出してください。出さないとガス中毒事故を起こすことがあります。

●煙突のドラフトが強い場合は、ドラフトレギュレーターを取り付けてください。

●煙突を設置するところと、ストーブを据付けるところの、相互の距離関係をよく配慮してください。

4 落下物の危険のない場所

●ストーブに物品が落下する可能性があるときは、その落下の可能性がある物品を取り除くかまたは落下の可能性のないように処置をしておいてください。

5 コンセントの位置

●交流100ボルトの電気のコンセントが、どこにあるかということもよく考慮してください。歩行者が、電源コードをひっかけないようにしてください。

6 暖房効果について

●ストーブの対流熱と放射熱で、暖房が最も効果的にできる場所を選んでください。

7 燃焼用空気について

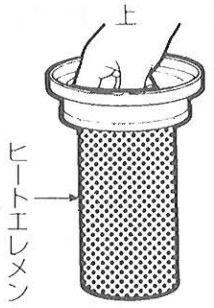
●ストーブを据え付ける場所には、下部換気口および上部換気口を設けてください。

●ストーブは充分に換気ができ、可燃性ガスが発生しない場所または、たまるおそれのない場所に据付けてください。

据付け方法

ヒートエレメントの取り付け

●「**ヒートエレメント**」は、下図のように、熱交換器内に正しく装着されているか確認してください。

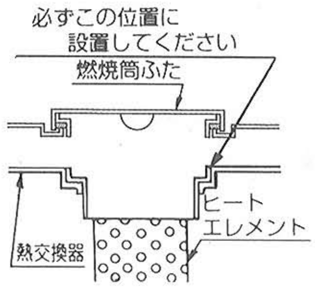




●ヒートエレメントを
熱交換器に入れます。



●ヒートエレメントを
熱交換器の図の位置
にのせます。



燃焼筒ふたの取り付け （臭気の原因となるため正しく取り付けてください。）

●「**燃焼筒ふた**」は、方向性があります。ふたの上面の表示に従って正しく取り付けてください。
取り付け後はふたが浮かないように(パッキンをなつかせるため)上から必ず押しつけてください。
浮いていると排気ガスが室内に漏れ、においがでます。



天板ガードの取り付け

●附属品の「**天板ガード**」を取り出して本体に取り付けてください。ストーブをご使用になるときは火災予防のためにも、必ずこの「**天板ガード**」を取り付けてからご使用ください。



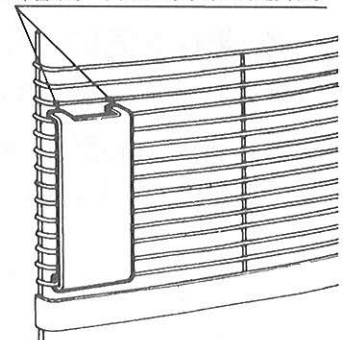
ガード遮熱板の取り付け

●このストーブは発熱量が大きいため、前面から特に強い放射熱を出しますので、可燃物との間には、充分な距離が必要です。

●ガード遮熱板は、壁面の可燃物の温度を上げないために必要ですので、20cmまで可燃物に近づける場合は必ず前面ガードの可燃物に近い方に取り付けてください。

●**ガード遮熱板の取り付け方**
ガード遮熱板を右図のようにガードに取り付けて、上下４箇所のつめを折り曲げて固定してください。

4本目のガードにひっかけて、つめを曲げる



お願い

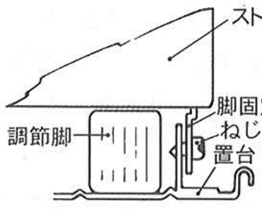
ガード遮熱板を取り付けない場合は、ストーブ側面と可燃物との距離は30cm以上離してください。
特に家具などは強い放射熱を長時間受けると、狂いを生じますから、注意してください。
なお、取り付けの際は保護シート(青色)をはがしてください。

置台の取付けと水平調節

●**「置台」**の上にストーブを据えて位置を決めてから、ストーブ床面の４箇所の**「調節脚」**で、**「水平器」**を見ながら水平になるように調節してください。（調節脚は、前、後で大きさが違っています。）

●ストーブと**「置台」**を、附属の止めねじ（２本）で、必ず固定してください。

●置台には前後があります。曲線部分が前側になるように取り付けてください。



油タンクの組立てと据付け

★油タンクの据付けについては、各地の火災予防条例に従ってください。

●28ページ **★油タンクとの距離を離す** を参照して据え付けてください。

ゴム製送油管の取り付け

●油タンクの送油バルブまたは、給油コックなどの油の出口とストーブの送油管に、附属または別売のゴム製送油管を差し込み、附属のホースバンドで締め付けてください。

●送油管の上には重量物がのったり、折れ曲がったり、空気たまりができるような形状にならないようにご配慮ください。

●規定の送油管以外は使用しないでください。

●ゴム製送油管は油タンクを屋外に設置する場合は使用しないでください。

●ゴム製送油管の取り付けは、曲げ半径が小さかったりねじれたりするとゴム内部に圧力が加わり、短時間でヒビ割れなどが発生し、油漏れの原因になります。
曲げ半径は、最低でも100㎜以上になるよう、またねじれのないよう設置してください。

●ゴム製送油管は紫外線に当たると劣化が早くなります。できるだけ日光の当たらない場所を選んでください。

●ゴム製送油管は、時間とともに劣化しますので、定期的に点検してください。
２シーズンに１度は新しい物に交換されることをおすすめします。

●油タンクを屋外に設置する場合は、必ず金属製送油管（外径φ８の銅管）を使用してください。

★金属製送油管で配管する場合は、切断や加工時の切りくずや切り粉をきれいに取り除いてから配管してください。切りくずや切り粉が配管内に入りますと、定油面器から灯油があふれたり、電磁ポンプの故障の原因になります。

電源コード

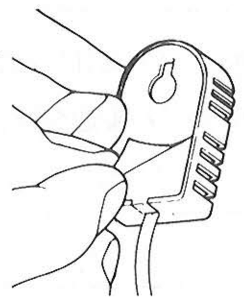
●電源コードは、傷ついたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、たばねたり、重いものを乗せたり、かみ込んだりしないでください。電源コードが破損し火災・感電の原因になります。また、足でひっかけたりしないよう配慮してください。

ルームサーミスタの配線（移動）

●ストーブの設置場所や周囲の状況によっては、お部屋の室温調整がうまくいかない場合があります。このような場合には、ストーブの背面に取付けてあるルームサーミスタの位置を変更してください。

1 ストーブ背面のルームサーミスタを止めているビニタイをはずしてください。

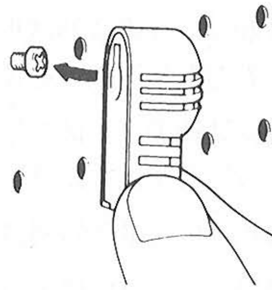
センサーケース裏面の粘着テープで壁や柱に貼付けてください。
（リード線の有効長さは 2.5 mです。）



お願い

リード線が、煙突に触れたり、踏んだり、引っかけたりしないように配線してください。

2 附属品の木ねじで固定する場合は、木ねじを壁にねじ込んでからセンサーケース裏面の穴に木ねじの頭を通して取付けてください。



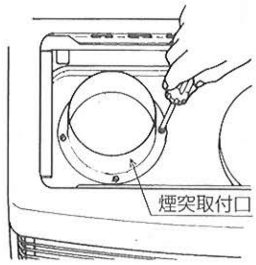
煙突の取り付け

煙突の径

●このストーブの煙突の呼び径(外径)は106㎜です。

煙突の引き出し位置の変更

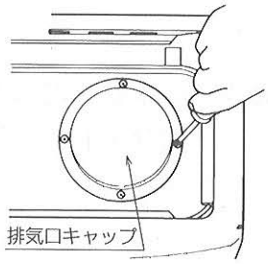
●このストーブは煙突の設置状況に応じて、本体右側からでも、本体左側からでも取り付けが可能です。取り付け位置の変更は次のようにおこなってください。



1 煙突取付口を固定している4本のねじをはずし、中のパッキンを損傷しないように煙突取付口をはずしてください。

2 排気口キャップを固定している4本のねじをはずし、中のパッキンを損傷しないように排気口キャップをはずしてください。

3 組み付けは逆の要領で組み替えてください。



煙突内の結露水凍結防止について

●厳寒地区では、屋外の煙突内結露水が凍結しふさがれることがありますので、充分に注意してください。

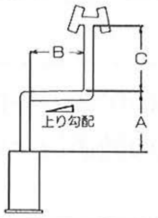
1 屋内の横引きは、できるだけ短くしてください。(2本以内)

2 立上げ部の接続は、T曲がりを使用してください。さらに、水抜き穴(φ6以上)をあけていただくと効果的です。エルボの使用は絶対におやめください。

3 屋外の横引きは設けないでください。

煙突の横引き、立上がりの標準寸法

●煙突の寸法と通気力(ドラフト)値は、ほぼ次の図表の通りです。

		通気力(ドラフト)(ーmmH_2O)
 単位：cm	A=160、B=230、C=160程度 A=160、B=570、C=330程度	0.8
	A=160、B=230、C=330程度	1.2
	A=160、B=60、 C=270程度	1.7
	A=160、B=60、 C=440程度	2.2

(注)通気力(ドラフト)とは、煙突を通じておこる排気ガスの流動を意味し、この流動を誘起する圧力差を通気力(ドラフト)と言います。

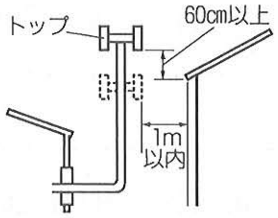
煙突の取り付け

煙突先端(トップ)の位置

1 煙突トップは、屋根面から垂直距離60cm以上離す。

2 トップから水平距離１m以内に隣接家屋などの軒がある場合は、さらにそれより60cm以上離す。

3 窓などの開口部からは１m以上離す。



煙突トップの形状

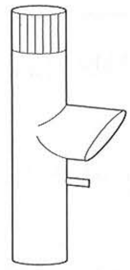
●煙突の屋外のトップ(先端)はH形か、A形を使用して、逆風や雨雪の流入を防いでください。

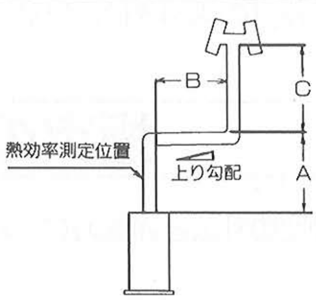
可燃物との距離

●煙突は木材など可燃物から、次の距離をとってください。
- ・煙突がストーブから1.8 m以内………45cm以上
- ・煙突がストーブから1.8 mこえる……15cm以上

ドラフトレギュレーター

●燃焼を安定させるために、トヨトミ純正ドラフトレギュレーターを取り付けてください。
強い風が吹いたり、その他の原因でドラフトが強くなりすぎると、バーナー内部にすすがたまり、立ち消えの原因となることがあります。
●熱効率と煙突の関係は、ほぼ次の表示のようになります。

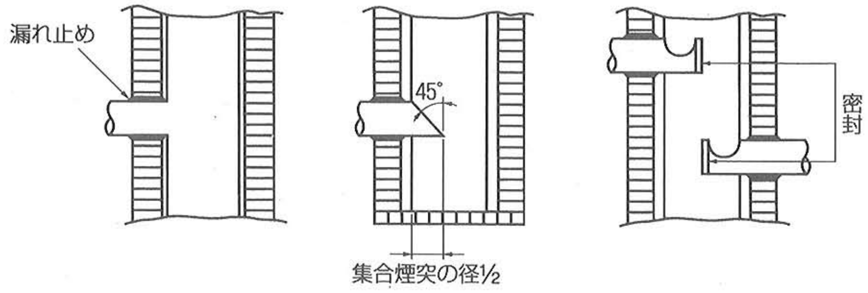


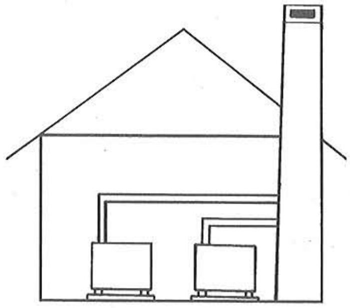
通気力(ドラフト)(一mmH₂O)	最大熱効率(%)	左の通気力(ドラフト)値にほぼ等しい煙突の長さと配置の例(cm)	煙突取付け図
0.8	72	A=160、B=230、C=160程度 A=160、B=570、C=330程度	
1.2	70	A=160、B=230、C=330程度	
1.7	69	A=160、B=60、 C=270程度	
2.2	68	A=160、B=60、 C=440程度	
(注) 通気力(ドラフト)とは煙突を通じておこる排気ガスの流動を意味し、この流動を誘起する圧力差を(ドラフト)と言います。			

表の熱効率の測定は表示の図に示す位置でありますが、実際には、例えばB部の中間で室内と室外の境になれば、煙突から放射熱が引きつづいて室内に出ますから、熱効率は表の数値以上により良くなります。
ドラフトレギュレーターをA部又はB部に設ければ、通気力(ドラフト)が強い場合は任意に弱めることができます。

集合煙突利用の際の差し込みかた

●集合煙突を利用するときには、図のような差し込みかたをしてください。その際、必ず設置方法などについて専門業者にご相談してください。





横引きの長い方を上側にする

条例に関する事項

●煙突の取り付けについては、各地区の火災予防条例に従ってください。

煙突の取付け図

●取り付け図は、27ページ 標準据付け例 を参照してください。

積雪地域での取付け位置

●積雪地域では、煙突先端(トップ)が、積雪でふさがれないような位置に取り付けてください。

試運転

★ストーブの据付け工事が終わりましたら、試運転を使用者とご一緒に必ずおこなってください。
使用者に運転方法はもちろんのこと、日常の点検・手入れの方法、定期点検、故障・異常時の処置方法、連絡先等をお教え願います。

●試運転の方法(運転準備、運転、消火の手順)については、 取扱編 の24ページを参照してください。

HR-682D　取扱説明書・工事説明書

愛情点検	★長年ご使用のポット式ストーブの点検を！		●ポット式ストーブの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年です。	
	ご使用の際このようなことはありませんか	●油もれする。 ●点火しにくい。 ●強いニオイがする。 ●炎が異常に黄色い。 ●運転中異常な音がする。 ●その他の異常・故障がある。	▶ ご使用中止	故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。

お客様へ…おぼえのために記入されると便利です。

型　式	HR-682D	お買上げ年月日	年　　月　　日
お買上げ店名	（電話番号）（　　　）　－		

株式会社 トヨトミ

本　　社　名古屋市瑞穂区桃園町5番17号　〒467-0855

TEL. 052-822-1144　FAX. 052-822-2742

S-Ⓡ